

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 5 月 6 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670900267号
法人名	有限会社 さつま福祉会
事業所名	グループホーム さつま苑
所在地	鹿児島県伊佐市大口針持 1235-8 (電話)
自己評価作成日	平成23年 2月 10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎ 同敷地内に温泉施設や民宿があり、遠方からみえる家族や知人も希望があれば宿泊できます。 ◎ 苑のまわりには、常に季節の花や野菜を植え、利用者や来苑者がいつでも見学・楽しむことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊佐市より薩摩川内市方面に向かう国道267号線沿いにある当ホームは、同敷地内に温泉施設や民宿があり、利用者の家族、知人、地域住民、温泉客の出入りの多い場所に建っている。近隣の小学校、保育園児の訪問を受けたり、婦人会と共にダンベル体操をしたり、老人会とのコスモス種まき、花見など地域との交流や協力体制ができている。ホームでの生活は日々手足の運動、体操、レクリエーションを通して身体機能の維持に努め、また、いつでも温泉に入れることもあって、清潔感のある日常を過ごせ、穏やかな表情の利用者が印象的である。職員はいつも笑顔で優しい声かけをモットーに、利用者個々を大切に、利用者の立場になって考え、利用者の想いを受け止める支援を実践している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	スタッフと利用者が、毎日、理念を唱和し、それぞれが自分の事とし実践している。	毎日、利用者と共に理念を唱和、学び、気づきにつなげている。優しい声かけを大切にし、職員は毎日の申し送り時や職員会議などで確認しながら日々、実践に努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や、小学校の行事に参加したり、苑の行事に参加を呼びかけ交流をはかっている。	地域老人会とのコスモスの種まき、婦人会によるダンベル体操、ボランティア団体の協力や保育園、小学校の学習発表会などに参加したり、ホームの七夕祭り、敬老会、クリスマス会などの行事に参加して貰うなど地域住民との交流ができています。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知ケアの専門として、地域の方の相談にのり、苑の見学、グループホームの役割等について説明をしている。交流会時、認知症を理解して頂けるよう説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、自治会、老人会、民生委員、行政、JA婦人部等、幅広い構成で2ヶ月に1回、定期的開催、参加していただき、意見を聞く機会の中で、サービスとケアの質の向上に活かしている。	会議は定期的に行われ、ホームの状況や行事の報告の他、地域や行政からの情報を得る場にもなっている。委員からも多くの意見を出してもらいサービス向上に活かしている。	

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事への参加を要請し、苑の取組み等をお知らせしたり情報を頂いたり又、質問等相談にのっていただいている。連絡協議会時、情報等の共有化、助言を受け入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者から情報を貰ったり、ホームの状況を報告したりして、情報の共有化を図り、サービスの課題解決や質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による弊害を職員全員が理解し、身体拘束をしないケアの取組みをし、日中は鍵をかけず、外に出られる時には自然な声かけをし一緒に付き添う等安全面に配慮して、自由な暮らしを支援している。玄関にセンサーを付け人の出入りをキャッチしている。	身体拘束をしないケアへの取り組みの1つとして、玄関にはセンサーを設置し、日中は鍵をかけず、外出の様子が見えたらさりげなく声かけし、一緒について行くなど安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフが虐待による弊害を理解している。日常、何気なく使っている言動の中で、虐待がないか、お互いに注意するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護や、成年後見制度について学習し、皆が理解し、必要な時に活用し支援できるようにしている。		

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、十分な説明を行っている。特に受診体制、入居費、その他の費用、考えられるリスクや利用者の状態変化により契約解除に至る場合も含め納得・理解して頂き同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日常生活の細かな訴えや意見・不満・苦情に耳を傾け記録・申し送りにてスタッフ全員で共有し改善していけるように取組みをしケアの向上を図っている。又、家族にも気兼ねなく不満・苦情が言えるように声かけを行い、声に出せない心に気付くケアに心がけている。	重要事項説明書に相談窓口を明記し、入居時に説明している。日頃から利用者、家族が意見、要望を述べやすい雰囲気作りに配慮している。出された意見は検討し、結果を利用者、家族、運営推進委員会に報告、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見・要望は聞き話し合い改善に向けて取り組んでいる。	職員会議を月1回開催し、サービス改善に繋げている。職員の要望により、トイレにポータブル洗浄器を設置するなど、ハード面の改善も実施、反映できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援を行い、研修会への参加を呼びかけ、各自、向上心を持って働けるよう努力している。		

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会の内容をスタッフに報告し、実践できることは取り入れている。スタッフが研修会に参加できるよう取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の地域密着型事業所連絡会の中で学習会に参加したり、近隣のグループホームとの交流があり、相談や情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時前に家族・本人と面談し、身体状態・生活歴・心配事や思い・希望を聞き理解し受け入れるよう努めている。又、可能な限り入居前に苑の見学をして頂き、納得して入居して頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時前に家族と面談し、困っている事、不安な事、要望を聞き、家族の立場になり、思いを受け止め信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の今、一番困っている事等を、しっかり聞いて出来ることは、すぐ対応し不可能な事は他のサービス等も紹介し、援助が受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、利用者より教わる事も多く「人生の先輩」として尊敬している。理念に基づき一緒に生活する家族と位置付け、互いに支え合い安らげる関係を築いている。		

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の様子・変化等状態を家族に伝え、お互いの情報を共有化し、家族と同じ思いで一緒に支えていく気持ちである事を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れた病院への通院や往診を受け、顔馴染みの方と交流を続けている。近所の友人宅への訪問も支援している。又、友人・知人の面会時は、ゆっくり話をしして頂けるよう支援している。	家族、友人、知人、お孫さんの面会が多い。個別に地域のお店に買い物に出かけたり、墓参り、自宅訪問、地域コミュニティの催しに参加したりしてなじみの人や場との関係維持を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格や心身の状態を十分に把握し、利用者同士の関係がうまく行くように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設に移られた方に、見舞い・面会に出かけている。又、家族にも連絡をし状態を聞いたり、相談があった場合は対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを受け止め、ゆっくり話を聞き、本人の声を聞くように努め、家族を交えて検討し本人の意向に沿った暮らし方に努めている。	日常生活において、笑顔で優しい声かけをし、ゆっくりと対話する事を心がけ、コミュニケーションを図りながら利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族に、これまでの生活歴を聞き、入居後も家族や知人の面会時に情報を聞いたり、本人の日常生活の中でも聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、その方の心身の状態に応じて出来る事を引き出せるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いや希望・主治医の意見・スタッフの気付き、アイデアを反映させるようにしている。定期的にカンファレンスを開催し、意見・情報を基に話し合い、ケアプランを作成している。	本人、家族の意向や要望を尊重し、毎月のケア会議で話し合い、主治医や職員、関係者の意見を反映した介護計画を作成している。3カ月に1回はモニタリングを実施し、計画を見直すなど、現状に即した新たな介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に食事量・排せつ・バイタルやその日の様子を日中・夜間帯に分けて記入し、情報を共有し、日々の変化を評価し介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりのその時の状況に応じて多様なその方に合わせた個別支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心した暮らしを続けられるように、民生委員・老人クラブ・駐在所等に苑の行事等に参加していただき、意見交換する機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医を希望する方には、通い慣れた医療機関に定期的に又は、心身状態に合わせた受診ができるようにしている。家族が同行できない方にはスタッフが同行し日々の様子を報告する体制をとっている。	利用者や家族の希望する入居前からのかかりつけ医受診を大切にしている。往診もあり適切な受診を支援している。	

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者個々の主治医・苑の協力医に気軽に相談をさせて頂き、緊急時に対応してもらっている。又、苑に看護スタッフがおり必要に応じて対応・指導・助言をもらって支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族を交えて担当医と話し合い、苑での対応可能な段階でなるべく早期退院できるように取組んでいる。入院時には苑での本人の状態を病院側へ詳しく情報提供すると共にスタッフも面会に行き状態を見守っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化を常に家族に報告・相談しながら家族の意向を確認し、主治医やスタッフと話し合いを行い、家族・主治医と連携をとりながら苑で出来る事、出来ない事を話し合い対応し、出来ない事は、医療機関にお願いをしている。	重度化した場合や終末期のあり方について家族へ説明し、対応を確認している。状況の変化を家族に報告し、家族の意向を聞きながら主治医や職員と話し合い、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルは作成し、スタッフに配布しているが、定期的に研修・実技の訓練は行っていない。		

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を経て、避難訓練・消火器の使用方法など運営推進委員と一緒にしている。地域の協力体制については地元消防団・自治会・近隣住民・運営推進会議で協力を呼びかけている。</p>	<p>避難訓練、消火訓練を年2回実施している。消防署の協力を得て、消火訓練には近隣住民も参加し実施している。食料品等も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、認知症からくる言動もその人の個性として受け入れ否定しないように努めて、尊厳とプライバシーを傷つけるような声かけをしないように再確認し、対応をしている。	利用者には高齢者として尊敬の念を持って接し、介護される側の気持ちを大切に、同一目線での会話、トイレ誘導時の対応など、利用者の誇りやプライバシーに配慮したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や、その日に着る服、入浴など日常生活の中で、本人の希望を聞きながら、自由に選択できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを、その方の体調・希望・思いを大切に、その方のペースに合わせて見守り、時にはスタッフが、ゆっくり対応する等、柔軟な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日に着る服を自分で選んだり、一緒に選んだり、行事や外出時には、特に自分らしいおしゃれができるように支援している。本人の希望に合わせて理美容店を利用される方、スタッフにカットしてもらう方等、その方に合わせた支援をしている。		

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と一緒に献立を決めたり、畑に野菜の収穫に行ったり、出来る方は一緒に調理をしたり、後片付け等もしてもらっている。スタッフも一緒に食事をしている。</p>	<p>献立は利用者の思い、希望を取り入れながらバランスの取れた食事内容を心がけている。旬の食材を使い、季節行事にあった食事作りに配慮し、準備や味付けも職員と一緒にいき、食事を楽しんでいる。時には、外食を楽しむ事もある。</p>	

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量を毎食チェックし記録している。献立は記録を取りメニューが重ならないようにバランスの良い食事と個々の好みも反映した支援をしている。水分量もチェックし脱水・便秘にならないように配慮している。又、水分制限のある方は量の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフは口腔ケアの大切さをよく理解しており利用者個々の状態に応じた口腔ケアを毎食後支援をしている。毎週一回、確実に薬による義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	スタッフは一人ひとりの排せつパターンを把握し、さりげないトイレの声かけ、案内を行いトイレでの排せつができるように支援している。自分で出来ることは少しでもして頂けるような支援を行っている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に応じた排泄介助ができています。オムツをしないトイレ誘導を実施し、自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、食事の中で食物繊維や乳製品が摂取できるように取り組んでいる。又、散歩やリハビリ体操等で体を動かすことで自然排便ができるように取り組んでいる。又、自然排便が困難な方については主治医と相談し薬を処方して頂き排便の様子を観察し対応している。		

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日・順番・湯加減等、本人の希望に合わせて入浴できるようにしており脱衣所にはカーテンをつけプライバシーの保護に務め一人ひとりに合わせた支援をしている。	原則は1日置きの入浴になっているが、希望に応じ毎日でも入浴できる。見守り、一部介助で入浴が利用者の楽しみの一つになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩・体操・レクリエーション・掃除など、その方に合わせた日中活動を促し安眠できるように支援している。日中もその方の状態に気をつけ、休憩の声かけをしている。夜間の不眠の方には主治医と相談して薬剤を含めた安眠策をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋は、ケース記録にファイルし、いつでも薬の内容・副作用が把握できるようにしている。服薬時は確実に確認している。薬の変更・臨時薬時は変化等ないか注意し記録に残し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや掃除・後片付けなど出来る事をして頂き感謝の言葉を伝え、役割を持つ喜びを支援している。利用者と一緒に花見や外出に出かける機会をつくったり、季節の行事を楽しみながら行っている。		

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に配慮しながら散歩をしたり、季節毎の花見・ドライブに出かけたり買い物に出かけたりしている。又、お墓参りや自宅等、本人の希望に沿って、ご家族等の協力を頂きながら、出かけられるように支援している。	利用者の状態を見ながら近隣への散歩、買い物など一緒に出かけている。季節ごとに花見やドライブに出かけ、閉じこもらない支援ができています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じて、お金を持つ安心感と苑で預かっている方でも自分の好みの物を購入し支払いをする場面作りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望に沿って電話をかけたり、取り次いだりと支援をし話中は、そっと席を外すなど配慮をしている。又、年賀状や暑中見舞いに一言、直筆にて書いて頂く等、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量・照明・室内の温度は、その場に居る方に合わせて調整している。トイレの臭い等も消臭スプレー等を使用し、不快を感じさせないよう配慮している。台所からの聞こえる調理の音や匂い又、食堂より見える家庭菜園を見、生活感・五感への働きかけを工夫している。	玄関、周囲は花で飾られ、台所からはリビングの様子が見通せる設計になっている。共用空間は清潔で換気もよく、装飾や照明、また、皇室の写真や毎日の日付カレンダーにも利用者の想いが配慮されている。ソファ、テーブル、椅子の配置も利用者が居心地よく過ごせるよう、工夫している。	

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関内外や廊下・食堂にイスを置き一人でくつろいだり入居者同士、外気浴やお茶を飲んだりして自由に過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、出来る限り使い慣れた家具・雑貨・日用品を持ち込んで頂き、その方の好みや使いやすさに合わせた居室づくりをし、居心地よく過ごせるように工夫している。	利用者の好みに合わせ畳とフローリングの居室がある。ベッド以外は利用者のもので生活歴や個性が見られる居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能にあったベッドの高さ・手すり・車椅子・杖・浴室にも手すり・滑り止めマットを使用し、その方の持てる力を活かした安全で安心した生活を送れるよう工夫している。トイレ・居室に表札などをつけ自立した生活を送れるように支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームさつま苑 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない